

◆水明インターネット句会◆ 令和七年十二月

(1)

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
冬ざれや喪の葉書つむ机かな 襟巻に老の息さへ暖かし	一人来て風となりゆく枯野かな 格好いいのに豚になつてる風邪つぴき	烈風の嗚咽めきたる虎落笛	葛蔓足に絡ませ枯野道	赤蕎麦の畠に残りし落暉かな この家のこの木の冬芽しもぶくれ	誰か居てだれかがゐない年の暮	千し大根白き小舟が雲に乗り	冬鶏や仰向いて飲む粉薬	池涸れて顕になりぬ捨小舟	竹馬や前傾にして歩き出す	毛糸編む泣くのは3日ほどがいい	案の定京は時雨て路地の店	木漏れ日をはらりと乱す落葉かな	冬夕焼心和むや山の鐘	太陽にいのち丸ごと日向ぼこ					

◆水明インターネット句会◆ 令和七年十二月

(2)

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	子を首に巻いて枯野の父となる もの持たず余白深まる年の暮	

◆水明インターネット句会◆ 令和七年十二月

(3)

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	柿の実のずつしり重く枝垂るる枝	顔見世や胡坐啖呵の緋縮纏	夕映えはステンドグラス冬夕焼け	古の乳香纏ふ聖夜かな	

◆水明インターネット句会◆ 令和七年十二月

(4)

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	くさめしておでん屋台の無礼講 波の花舞ふ越前の荒磯（ありそ）海 さわさわと竹の葉ずれよ小春の日	メモ一つ消し一つ足す十二月 夜回の夫待つ妻の手編み棒	夙や会わなきやよかつた同窓会 冬晴れや槌音高く廃屋跡	枯蠅蠅懺悔の祈りも無かりけり お湯かけて福呼ぶ七福詣でかな	初氷ひかり確かに風の紋 バビロンの塔崩れゆく落葉期	ほつとかれ不機嫌な猫年用意 凍空や駅のホームのラーメン屋	冬帝の統べる静寂や銀世界 数へ日の十度は覗く納戸かな	初時雨街へ迷子になりに行く 去る君の靴音残る冬の月	かくれんぼ鬼を見てゐる冬薔薇 帰り花ひとつ古い木に来てとまる	ぞぞろ寒ハローウークの帰り道

◆水明インターねつト句会◆ 令和七年十二月

令和七年十二月

(5)

◆水明インターネット句会◆ 令和七年十二月

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
裸木の隙間に見えし千切れ雲 緑の本一番上にある師走 年の瀬の膨らむスクランブル交差点 山茶花や想いを馳せる来し方を 冬の夜や赤きテントの町中華 冬の一陽來復明けたり まつたりと日だまりぬくし冬の朝 闇の世の一陽來復明けたり 裸木の灯りの化粧にほひ観に 何事もなく夕暮れて冬至粥 のりたまのふくふく香る冬休み 男には男の辛さ空つ風 数え日や窓拭く爺の力こぶ にごり川きみが育つた冬の町 數え日や棺の友のしたり顔 極月もモーゼの苦難恨む人 更科の蕎麦を食して大晦日 冬帽子みちのくの日の有難き 年用意表札の文字なぞりつつ のうのうと妻の実家の置炬燵																			

◆水明インターねつト句会◆ 令和七年十二月

初雪やエレベーターは最上階へ
カフェラテを買はねばならぬ冬木立

(6)